

## 大分県立看護科学大学 学生交流プログラム 2013



2013年8月18日（日）～25日（日）の8日間、私たちはソウル大学を訪問し、交流学生として様々な体験をしてきました。施設訪問など交流プログラムの様子について紹介していきたいと思います。

8月19日（月）

---

ソウルに到着した翌日にソウル大学看護学部でウェルカムセレモニーが開かれました。ソウル大学の先生方に来ていただき、歓迎の挨拶をいただきました。また、ソウル大学の歴史や看護教育についてのお話をいただきました。そして、学内ツアーにて講義室や実習室、技術練習室など、普段ソウル大学の学生が看護を学んでいる場所に案内していただきました。講義室については私たちが普段学んでいる講義室とあまり変わらない様子でしたが、技術練習室や実習室ではシュミレーターなどの設備が充実しており、とても驚いたのを感じています。技術練習室では注射などの看護技術を重点的に練習できる場所であり、先生に許可をいただければいつでも練習できる環境となっていました。静脈注射のシュミレーターがあり、あらかじめ血管の太さや血圧など様々なケースを設定して練習できるようになっていました。

2011年にオープンした実習室では、成人・小児・母性・手術室・ICUの実習ができる部屋がありました。それぞれの部屋の周りはガラス張りになっており、カメラ・マイクにて動画撮影もできるため、録画した映像で振り返りができるようになっていました。人形モデルは部屋の外にあるコンピュータで設定を遠隔操作できるようになっており、かなり実践的な施設となっていました。

お昼にはソウル大学の学生主催のウェルカムパーティーが開かれました。私たちのためにダンスやヴァイオリンを披露してくれて、とても盛り上がりました。用意してくれたビビンバや海苔巻きなどの食事をしながら、国際交流メンバー以外の学生ともたくさんお話をし、あたたかく楽しい時間を過ごすことができました。

午後からは、アサン病院を訪れました。アサン病院は総病床数 2680 床ととても大きな病

院で、がんセンター・心臓病センター・臓器移植センターの機能を担っているということでした。また、看護師教育にも力を入れており、日本の病院でも行われているようなプリセプター制度やラダー制度を取り入れていました。他にも、E-ラーニングシステムや海外研修プログラムなど、日本ではあまり見られないものもありました。

院内ツアーでは、デパートのようにたくさんの人が行き交っており、病院の規模の大きさを実感しました。病棟では、電子機器を使って患者や家族が薬剤について学習する場が設けられていました。韓国では家族が患者に付きっきりで身の回りの世話をを行うという背景があるため、患者や家族が治療における知識を取り入れ、医療者と協力していくことがより重要となっているのではないかと考えました。

アサン病院を訪れることで日本と韓国の医療システムや社会背景などの相違点を考えることができ、とても良い勉強となりました。

4年生 Y.A

8月20日（火）

---

国際交流3日目は、午前中に日本の保健所にあたる韓国のヘルスセンターに行きました。日本の保健所と異なり、韓国のヘルスセンターは施設内に、レントゲン室、病理検査室、さらに歯の治療ができる器具も揃っていました。保健所というより、病院のような側面を持っていると感じました。ヘルスセンターが抱えている問題として、独居している高齢者の利用数が少ないということでした。これは、日本と同じ問題でありなかなか最善の解決策が見つからないとのことでした。今後、日本と韓国が協力して最善の政策ができることを望み、また、それに関わるような看護師になろうと思いました。

昼食は韓国の伝統料理のサムゲタンでした。初めて本場のサムゲタンはとてもおいしかったです。また、ソウル大学の学生から、サムゲタンは薬膳料理で夏バテのときに食べると元気がでると教えてもらいました。

午後からは、韓国伝統衣装であるチマチョゴリ、パジチョゴリを着て、韓国の茶道体験と礼儀作法を学びました。チマチョゴリ、パジチョゴリはテレビで見ていた衣装で、実際に見てとても綺麗だと思いました。韓国の伝統的なお茶はとても飲みやすく、2回おかわりをするほどでした。礼儀作法は、男性と女性で異なり日本と違いを感じながら茶道の時間を楽しみました。最後はみんなでたくさんの写真を撮りあい、とても貴重な経験ができました。そのあと、ミョンドンで買い物をしました。とても多くのコスメティックの店が並んでいて、たくさんの方がいました。買い物のとき、日本の学生も韓国の学生も一緒になって、いろいろな商品を試したり、相談したりと、とても仲を深めました。このミョンドンでは美容液や美容パックなどのお土産をたくさん買いました。

夕食のあと、宿舎でパッピンスという韓国のかき氷を食べました。日本のかき氷と異なり、氷自体にも味が付いていて、またもちとあんこも入っていてとてもおいしく、みんなで夜遅

くまで話しながら食べました。

3年生 Y. U

8月21日(水)

---

滞在4日目はソウル大学の寮からバスで1時間程の所にある、広域市の Green Hill Nursing Home という老人ホームを訪問しました。この Green Hill Nursing Home は、高齢人口が増加してきた韓国で、看護師が老人ホームを設立することができるようになったのをきっかけに、2000年に設立されました。施設は綺麗で、あたたかい雰囲気でした。各階に庭があり、施設ではなく家庭に近い環境を意識してありました。防臭も兼ねてアロマ療法がされていました。ホスピス ルームもあり、本人や家族の希望に合わせ、人としての尊厳をもって最期を送れるよう考えられています。韓国は近年高齢化が進んでいて、このような老人ホームの需要も高まってきています。日本の高齢化対策も参考にされていました。しかし、韓国では施設に家族を預けることを親不孝だとする風潮があり、デイケア や老人ホームはまだ深く浸透はしていないようです。私達が訪れた Green Hill Nursing Home は、これに先駆けた老人ホームでもあります。

3年生 Y. N

8月22日(木)

---

午前：韓国の歴史を学ぶ

ソウルには朝鮮の五大古宮がある。その中のユネスコ世界文化遺産に登録されている昌徳宮(チャンドクン)と景福宮(キョンボクン)を見学した。それぞれの古宮には違いがあり、当時の時代背景や王室の暮らしなどを学ぶことができた。昌徳宮は自然あふれるなかに存在していた。仁政門をくぐると、昌徳宮の正殿である仁政殿があり、そこには、位が刻まれた品階石と呼ばれるものがたててあり、それぞれの位に応じた位置につき王の即位式や朝礼など重要行事が行われていた背景について学ぶことができた。また、建物の前には、魔除けとした壺が置かれていて、日本と類似している点も見学することができた。

午後：ソウル大学病院(SUN Hospital)見学

〈Main building〉

ソウル大学では、最先端の医療が患者に提供されていた。また、医療に関する情報を世界中に発信していた。日本と大きく異なると感じた点は、韓国では患者の家族が身の回りの援助を行っていることである。そのため、看護師は医療処置に時間を費やすことができる環境であると感じた。しかし、必ず付き添いが必要になってくることから、家族の誰かが入院するとその家族の生活スタイルまで大きく変化していくこと、付き添いによる身体的・精神的負担が家族に大きいのではないかと感じた。また、在院日数短縮・在宅療養が推進されている現代において、リハビリが重要視されている。リハビリをより効果的にすることは、日常

生活援助のなかで、できることは患者にしてもらうことであると考えた。そのことから、日常生活援助に看護師が関わることができる日本の医療環境の良さを学ぶことができた。看護師の教育体制については、日本と同様にプリセプター制であった。加えて、タブレット端末を使用し、自宅や病院内など、どこでも自己学習が行うことができる環境を整えており、自分の生活に合わせて学習できる環境であると感じた。

#### 〈Children Hospital〉

こども病院は15才以下の児に医療を提供する小児科病院であった。病院内はすべて子どもが少しでも安心できるように装飾がされていた。また、患児の親がなんでも相談できるよう相談スペースを設置し、看護師と親が1対1で不安や悩みを打ち明けることができる環境づくりがされていた。

#### 〈Cancer Center〉

がんセンターでは外来および短期入院を中心に医療が提供されていた。がんの部位別に診療科を設けた治療環境であった。患者や家族が病気や治療、生活の仕方、症状への対応ができるよう講座を行ったり、リラックスや気分転換のため、音楽療法やヨガなども行われていた。また、がんセンター内に設置されているがん情報教育センターでは、タッチパネル、スマートフォンやパソコンで病院が作成したデータベースより、患者や家族がいつでもがんに関する情報を得ることができ、教育センター内の専門看護師や社会福祉士に相談できる環境であった。患者・家族が十分に病気や治療について理解し、相談できることで、治療について考え、選択でき、長期的な健康管理を行っていくことができるのではないかと考えた。また、音楽療法など気分転換のためのプログラムが行われていることで、患者の精神的サポートも行えるのではないかと考えた。

4年生 A.F

#### 8月23日（金）

---

ソウル大学メインキャンパスツアーではメインキャンパスに通っている3人の国際交流サークルのメンバーに案内していただきました。英語で流暢に話してくださる方、勉強中の日本語を一生懸命話してくださる方々がいて、嬉しかったです。また、さすがソウル大学の学生だなと思いました。

校内の敷地はとても広く端から端までいくのに歩いて2時間かかるそうです。まず初めに校内の歴史資料館に行きました。スタッフの方はとても流暢な英語で話されていてとても驚きました。その次にキャンパス内を歩きながら経営学部の棟、美術館、大学の校門などを見て回りました。どれも建物がとても立派でした。各学部の建物の協賛としてSAMSUNGやLGといった多くの大手企業がありました。そこでもソウル大学のすごさを実感しました。昼食は農学部の棟の大学の来客用の食堂で食べました。この棟の学食は美味しいと校内で評判だそうです。実際に内装もきれいでごはんもとても美味しかったです。客層は大学の教授が多いと聞きました。

お昼を食べ終わるとカンナムにあるソウル大学のヘルスケアシステムセンターに行きました。そこは40階建ての高いビルの一角にありましたが、とても豪華な内装でした。初めに施設の紹介DVDを見ましたが6か国語用意されており、その時点で世界を視野に入れた対応をしていると感じました。施設の機能としては主に検診を受けられる保健センターのようなところでした。検査をしていき、医師がその結果について丁寧に説明し、薬の服用をどうすべきか、転院をすべきかなどについても話されます。また、栄養士さんもいて生活習慣病の改善システムもありました。このように一人の対象者に様々な分野での専門家がつくことで高質の医療が提供されていると感じました。患者層はやはり裕福な方や芸能人が多く、外国人の患者もおられるそうです。また、大手企業の集団健診も受け付けているそうです。国立病院の提携施設としてこれだけ豪華なところは日本ではないなと思いました。

夜はフェアウェルパーティーがありました。ソウル大学の先生や教授たちも勢揃いし、最後の夜をともに楽しく過ごすことができました。感謝の気持ちを込めて私たちからプレゼントを渡すととても喜んでくださり私たち自身もとても嬉しかったです。今回の交流を通しての学びや感想を発表しあい、とても充実した研修だと思いました。またこれまでの思い出を振り返り、改めて交換留学生はじめとするソウル大学のかたとの絆を感じた夜でした。

3年生 H.U

8月24日（土）

---

8月24日のフリータイムでは、引率の先生とソウル大学の学生、そして私たち大分県立看護科学大学の学生で、宮殿巡りをしたり、韓国料理を食べたり、ショッピングをしたりし、韓国の文化や歴史に触れ、韓国でしかできない貴重な体験をすることができました。宮殿巡りでは、昌徳宮や景福宮などの韓国の伝統的な建造物や、歴史記念館、国立民族博物館を巡りました。みんなで歩きながらじっくり建物を眺めたり、実際に建物の中に入ったりして、この建物は昔どのような人たちが住んでいたのかや、どのようなことに使われていたのかなどについて、ソウル大学の学生が詳しく説明してくれ、昔の人たちの様子を想像しながら巡ることができました。赤色や黄色、緑色で描かれた模様が天井一面に広がっている宮殿があったり、敷地内に壮大な庭がある宮殿があったりし、それらの美しさと辿ってきた歴史を感じ、とても感動しました。歴史博物館や国立民族博物館では、韓国の冠婚葬祭の様子がビデオや展示物によって示されていたり、伝統的な楽器の展示物があり、音を聴けるようになっていたりして、韓国の文化についての知識を深めることができました。また、韓国での宮殿めぐりで、日本の京都の寺巡りを思いだし、韓国と日本での類似点を見つけることができたと感じます。

韓国料理については、昼食ではチヂミ、夕食では、豚肉を使った焼肉のサムギョプサルを食べました。チヂミの専門店では、もちが入ったチヂミなど、様々な種類のチヂミがあり、

驚きました。食感がサクサクしていたり、もちもちしていたりし、どのチヂミもとてもおいしかったです。サムギョプサルは、私たちが行った焼肉店では、食べる際にそのお店の準備したエプロンを着用して食べるシステムであり、日本では経験したことがなかったため、とても新鮮でした。私は、メニューに豚の皮があったことと、肉によって味付けに辛さの度合いが違うものがあったことに驚きました。私はこれまで焼肉で豚の皮を食べた経験がなく、食べることに戸惑いましたが、それには女性の肌にうれしいコラーゲンがたくさん含まれていることを聞き、食べてみました。すると、プリプリとした歯ごたえでほんのり甘い味がし、想像していたよりもとてもおいしく、その味に魅かれた学生でお腹一杯になるまでたくさん食べました。全体的にキムチのようなスパイシーな味付けのお肉が多かったけれど、みんなでおいしく、楽しみながら食べることができました。

ショッピングでは、韓国でのショッピングスポットに行き、韓国のお土産、化粧品やバッグなど、各専門店が並ぶ通りを歩き、ショッピングを楽しみました。韓国は、化粧品のお店がたくさんあり、同じお店が同じ通りにいくつかあったりし、その数の多さに驚きました。また、この光景を日本ではあまり見ないと感じ、韓国は日本と比べて美に関する意識が高い女性が多いように感じました。化粧品の専門店では、パックや口紅、BBクリームや化粧水などたくさんの化粧品が充実していて、選ぶのに迷ってしまうほどかわいくて魅かれるものが多かったです。日本ではメイクの時にチークをする人が多いけれど、韓国ではあまりいないと聞き、日本と韓国でメイクの仕方が違うことも知り、興味深かったです。

フリータイムでの食事や買い物などを通じて、韓国の人たちの生活を体感することができ、韓国と日本の似ている点、異なっている点を見つけることができたと感じました。また、ソウル大学の学生とも、何気ない会話をしたり、将来について語り合ったりし、より深い関係が築けたと感じます。

このような素晴らしい経験をさせてくれた先生方、ソウル大学の先生方、学生の皆、そして共に過ごした仲間感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

3年生 S.A

#### 大学院生として交流プログラムに参加して

---

Lee-ennjn 先生は母性看護学の大学院生です。今回、韓国の助産について教えてくださいました。韓国では日本と異なり、助産師を育成するのは病院で、国内には助産師を養成する病院が4施設あり、1年間かけて学ぶそうです。しかし、助産師は韓国では古いものと認識されており、助産院は現在国内に10か所しかなく、助産師数は8500名の登録があるが実際に働いている人はすごく少ないそうです。今回のプログラムで訪問した施設にも助産師は働いていないということをお聞きしました。養成する施設も少なく、年間に30名しか、助産師にならないとのこと。現在、日本のように助産師を大学で育て、病院で働けるようにする動きがあるそうですが、国との話し合いが停滞しているそうです。

韓国では、国からの出産費用補助の制度があり「美しいお母さんカード」というものがあり、これを使うと自然分娩で入院から退院まで約 2 万円の自己負担だそうです。日本では出産一時金という補助が出ますが、自己負担額は地域によって異なることを伝えると驚かされていました。

韓国では、無痛分娩の割合が多く、フリースタイル出産はほぼ 0 だそうです。フリースタイル出産やおっぱいマッサージなどは日本がとても進んでいるようで、おっぱいマッサージに関しては、日本で行われているものを参考にして実施しているようです。また韓国のお産では、“妊婦の 3 大絶対条件” というものがあり、必ず①会陰切開、②シェービング、③浣腸を行うそうです。日本ではできる限りこれらを避けるため、とても驚きました。

近頃、芸能人が利用し、メディアで聞くようになった“産後調理院”についてもお聞きしました。“産後調理院”はもともと済州島の助産師が、退院後にそばで見守ってくれる人がいないママたちを支援するために作ったのが始まりだそうです。現在、産後調理院は医療系の資格を持っていなくても誰でも作ることができるそうです。ソウル市内でもこうした産後調理院が増えており、社会問題になりつつあるとのこと。専門的知識がないために、感染などの問題が多発してしまうそうです。

韓国でも日本と同じように高齢出産が増加しており、不妊治療を受ける人も増えているようですが、不妊治療により多胎妊娠が増え、問題になっているそうです。

今回、韓国の助産についてお話をお聞きして、助産師育成や労働、ケアに関しては Lee 先生が感じたように私も日本が進んでいるように感じましたが、社会は韓国と日本、同じような状況にあるように感じました。1 対 1 でお話をさせていただくことができたので、韓国と日本を比べながら、双方の助産について深く学ぶことができました。

大学院助産学コース R. M